

日本人類学会教育普及委員会 シンポジウム

静岡県理科教育研究会、静岡県理科教育協議会 後援

「生物基礎」と「生物」で 教える人類の遺伝と形質

参加費無料

日時：2014年11月3日(祝) 10:20-12:20
場所：静岡県浜松市アクトシティ浜松
 コングレスセンター 21会議室

JR浜松駅から徒歩7分

<http://www.actcity.jp/floor/congress/access.php>

<http://www.actcity.jp/floor/congress/>

http://www.gakkai.ne.jp/anthropology/68_annual_meeting/

講演：

新教育課程と遺伝学：高校の授業で遺伝学をど
のように扱えばよいのか／芥川昌也

「生物基礎」と「生物」で理解するヒトの遺伝
と進化／中山一大

午後の公開シンポジウム（下記）と併せたご参加を歓迎します。

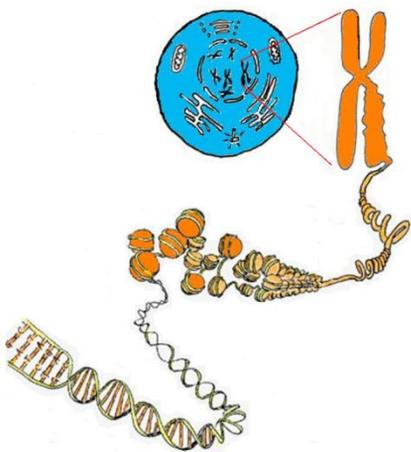
第68回日本人類学会大会公開シンポジウム

「旧石器時代人から縄文時代人へ」

ー 浜北人、三ヶ日人、蜷塚貝塚人、そして家康へ ー

11月3日 13:30～16:30

アクトシティ浜松コングレスセンター 41会議室



日本人類学会教育普及委員会 シンポジウム（公開）

[静岡県理科教育研究会、静岡県理科教育協議会 後援]

「生物基礎」と「生物」で教える 人類の遺伝と形質

新学習指導要領が公示され、それに沿って編纂された教科書による授業が進められている。高校生の大部分が履修する「生物基礎」では、各教科書ともDNAと遺伝の基礎について30ページ前後にわたって取りあげている。そのなかで2-3ページほど“ヒト”の染色体、ゲノム計画に触れている。また、からだを構成する細胞と遺伝情報について触れている。「生物基礎」を履修した後に、二割程度が選択履修する「生物」では、遺伝情報の発現、ヒトの染色体にある遺伝子座、ヒトの伴性遺伝、突然変異、一塩基多型、分子進化と中立進化、分子時計など“ヒト”の遺伝や進化に関わることが随所に取りあげられている。本シンポジウムでは、教科書のこれらの内容を踏まえながら、研究進歩の早い遺伝学分野の情報を高校教育の中でどのように扱ったらよいか、人間性の由来や多様性の理解、倫理観の涵養にどのようにして役立てるか、どのようにしたら教育普及委員会のサイドから人類遺伝学に関連した情報を授業のネタとして現場の教員に適確に提供できるか、といった諸課題について考える。また、自然人類学の視点は医学の視点と異なるところがあるが、同じ教材でもいろいろな見方ができるのではないかとこのところを議論したい。さらに、生物の遺伝に関する基礎的な内容を理解する助けとなる人類遺伝学分野の情報と、「生物基礎」から「生物」にわたる授業の展開にフィットするそれらの組み合わせについて検討をすすめたい。

2014年11月3日（祝）10:20 ～ 12:20（参加費無料）

場所：静岡県浜松市アクトシティ浜松コンgresセンター 2階21会議室（予定）

プログラム

■新教育課程と遺伝学：高校の授業で遺伝学をどのように扱えばよいのか
芥川昌也先生（静岡県立浜名高校）

■「生物基礎」と「生物」で理解するヒトの遺伝と進化
中山一大先生（自治医大）

コメント1 齋藤成也先生（国立遺伝研）

コメント2 近藤 修先生（東京大学）

総合討論

司会 太田博樹先生（北里大学）

皆さまの総合討論への積極的な参加を期待しております。

問い合わせ先：Tel/Fax：04-2996-5219（オーガナイザー：松村秋芳・太田博樹）

日本人類学会教育普及委員会HP:

<http://c14.um.u-tokyo.ac.jp/wiki/public/kyokasho/wiki.cgi>